

自治体政策研究会発足記念講演会が開催されました！



左より 武大阪市議会議員、金谷東淀川区長、
西脇邦雄研究会代表

自治体政策研究会とは

「自治体政策研究会」は、大阪経済法科大学の各分野で蓄積されている研究者の知見を広く開放し、特に自治体で日々活躍中の首長・議員・職員との交流を通じて、その政策立案に寄与することを目的として発足したものです。研究会には地元八尾市の田中誠太市長、隣接する東大阪市の野田義和市長に顧問として就任していただいております。

記念講演会では「産学官での研究はもちろん、産と大学・市民との交流研究が行われたことに意義があり、今後も継続していきたい」と21世紀社会総合研究センター所長の多胡圭一法学部教授の挨拶があり、参加者一同は今後の研究会活動に大いに期待を抱いております。



閉会挨拶での多胡教授

今年度テーマは「大阪市の住民投票が問いかけるもの」

大阪で先頃行われた140万人の民意を問う住民投票と、ドラマチックとも言える「僅差での否決」。研究会は今年度、この歴史的な意味を、政治学や地方自治の研究として検証していく事の意義に着目し、大都市制度論、特に府県と政令市のあり方について「大阪市の住民投票が問いかけるもの」として研究していく計画です。

武直樹議員 講演内容



○武直樹大阪市議会議員紹介

1972年生まれ、倉敷市児島出身。同志社大学大学院にて社会福祉学専攻、博士前期課程修了。主として福祉・街づくり分野を得意とする。2011年大阪市議会議員選挙にて初当選、2015年現在2期目。

武直樹議員からは、本年5月に投票が実施された大阪市の住民投票での経験を踏まえ、大阪市での区の担う役割や、大阪市と住民の関係性、住民との相互方向的な市制のあり方をどのような観点で追及すればいいかを、また大阪戦略会議の行方や地方自治法改正についてのレポート報告をいただきました。講演後には市民の方からの質問も受け付けていただきました。

金谷一郎東淀川区長 講演内容

金谷東淀川区長からはまず、住民投票に際し手続き的な視点での市民と区役所のやりとり、現在の区の制度設計の実際の運用についての説明を交えながら、特別区と総合区の制度設計に関する現状・課題の問題提起をいただきました。講演後には市民の方との質疑応答でも特別区・総合区に関しての内容に踏み込んでいただきました。



○金谷一郎東淀川区長紹介

前歴の東成区長時代には、街づくり協議会や「ものづくりフェスティバル」などの仕掛人として有名。大阪市役所を退職し公募区長に応募。東淀川区長として、住民参加の形にこだわり続ける。

次回研究会のご案内など

下記のように、第2回目の研究会を予定しております。第2回目では講師への質問を通じ議論を深めていきます。皆様にお会いできることを楽しみにしております。

○日時：10月31日 午後3時～5時
終了後 懇親会（予定）

○内容：特別報告

1「府市の役割—大阪戦略会議と府市調整会議について」
大阪市議会議員 武直樹氏（生野区選出、無所属）

2「これからの区役所、総合区制度について」
大阪市東淀川区長 金谷一郎氏

○会場：大阪経済法科大学 鶴橋 OIC センター5F
543-0024 大阪市天王寺区舟橋町2-2
（環状線鶴橋下車 北へ200m 1Fはなびさ診療所）

○参加費：研究会は無料、懇親会参加は3,000円

○お申込：メール jichilabo@gmail.com 10/26 締切

☆編集後記☆

○前歴経験で人集めは得意ですが、実際に研究会を運営となると…むむむ。でも、ご参加くださった皆さんとの時間共有がこれから楽しみです（西脇）

○実は冷房問題で直前まで走り回っていました。こんなに汗をかいた夏は初めてかもしれません（事務局Y）
○知識を得るだけでなく様々な考えから対話が広がる…そんな研究会になるよう尽力できればと思います（事務局H）

○皆さんの熱気にびっくりしました。また広い意味で世の中のシステムをよりよくしていこう！というんな立場の方が集結していることに感動しました（事務局YA）